

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0373000744		
法人名	有限会社ヘルパーはうす		
事業所名	グループホームまぶる		
所在地	岩手県下閉伊郡山田町大沢4-38-5		
自己評価作成日	平成25年1月3日	評価結果市町村受理日	平成26年4月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/03/index.php?act=on_kouhyou_detail_2013_022_ki_hon=true&Ji_gyosyoCd=0373000744-00&Pr_efCd=03&Ver_si_onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成26年2月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

高齢者の入所者が本心で求める生活とは何か？職員が常に探求しなければならないことだと思うが、ただの施設PRだったりリアクションにならないよう、また押し付けにならないよう援助したいと考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームまぶる」は、東日本大震災後、避難所から民家での避難生活、その後、仮設のグループホームを経て、平成25年9月に山林を造成し、新たなグループホームでの生活を迎えている。利用者を守り、共に歩んできた困難な道のりは、管理者・職員・利用者の厚い信頼感や絆としてグループホームの中の基盤となっている。利用者から、職員に対する思いやりのある言葉掛けや、管理者・職員が利用者一人ひとりを大切にした介護を目指す姿勢により、震災前・震災後も一貫して温かで、落ち着いた介護が行われていた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新しい施設に移っても、津波のことを忘れないためにも職員のカウンタースペースに掲げ毎朝唱和している。	震災後、職員の発案で、現在の理念(個々の命と生活をまぶります)を継続して掲げている。カウンターの上に掲げ、朝の申し送りで唱和している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新しい施設が完成し、大沢地区に戻ってきたこともあり、保育園や老人クラブとの交流が再開している。また散歩中の近隣住民の方々にも声を掛けてもらったり施設に立ち寄る等少しずつ交流が増えている。	昨年9月、現在の地に転居しているが、近隣の雪かきを手伝ったり、日常の中で声掛けや、交流に努めている。また、以前から交流のあった保育園や老人クラブとの交流も大切にしている。今後、交流スペースの活用も検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人々に向けて認知症の理解へ向けた勉強会開催の働きかけを行っており、興味を持ってきている住民もいますが、まだ実施には至っておりません。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入所者の状況、活動報告などに対して、委員の方や他グループホーム関係者からの評価をいただき、サービス向上に努めている。	転居もあり大変だったが、近くは、2月に運営推進会議が行われている。4月には消防署職員の参加を予定している。また、新しく参加していただく事となった地区長を通し、地域との繋がりを構築している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町の担当者とは仮設から引っ越してから事業所としての不安や連絡事項を密に取っている。	グループホームの再建のための補助金等多岐にわたり相談や助言を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の出入りがわかるように玄関には鳴り物を取り付け、防犯上18時～翌朝5時までは施錠している。身体拘束に関しては、しないというのが施設の方針だが、改善が見込めるものに限り関係者と協議のもと期間を定めて行うこととしている。	職員はスピーチロックも含め、身体拘束の弊害を理解し、身体拘束を行わない介護に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	関連法についての研修に参加する機会がなく、そのような研修があれば参加したいと思っている。職員間での助け合いでストレス軽減を計り、入所者に対してゆとりある対応に努めている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームまぶる

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	昨年と同じで外部の研修には管理者のみの参加で全職員が学ぶ機会が少ないのが現状。今後は全職員が外の研修に参加しているいろいろな相談に対応できるようにしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、契約事項の中に重度化した場合における看取りの同意書を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談、苦情窓口、投書箱を設置し、主任または担当者が苦情に対応できるような体制作りを毎年4月には本人、家族へのアンケートを実施している。	利用者、家族からのアンケートにより、意見や要望の確認を行っている。「よくしてもらって」と、家族から話される事が多いが、何か相談があった時は職員で話し合い対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見、提案などはいつでも管理者が聞く体制ができており、可能なことであれば即日対応している。	職員の意見により、炬燵の高さ調節や、風呂の手すりの設置、リフトの購入など、その都度検討し、改善している。また、車の購入や勤務時間の変更など、現在検討をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	報酬や経営状態に応じて左右されることで簡単に環境や条件を整備できるものではない。入ってくる金があれば職員に還元しようとする気持ちは何処の代表者より強く持っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員がより良い介護を目指し、外部の研修に参加したり、本を準備していつでも閲覧できるようにしている。また働きながら旧ホームヘルパー2級を取得した職員もいます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県内のGHとの交流のほか、沿岸地域のGHとは交換研修をするなどしてお互いに刺激し助言し合っており、互いの良い所を取り入れている。また同じブロック内のGHの運営推進会議に参加し助言し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新規の入所者が入っていないが、事前に面接するなど、以前と同様に対応しているが、本人の口からは入居拒否が多いのが現状です。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	グループホームでの共同生活上の不安や困っていることを入所者の例を挙げ助言を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所してからの身体状態に応じ、そのときに必要なサービスを提示したり、本人や家族の希望に応じた情報を提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中の作業で、入所者それぞれの得意分野を活かせるように話を聞いたり、作業を共に行いながら職員も学んでいます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との面会、外出、外泊はいつでも可能となっている。また行事の際には招待状を送付し参加してもらったり、面会時には入所者の状態を報告するなど、家族との関わりを持ってもらえるよう支援しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	希望に応じ外出を支援したり、職員側から外出先を提案することもある。行きつけの美容院、懐かし場所、季節に応じたドライブを企画することによってまた出掛けたいと思ってもらえるよう支援している。	以前の利用者が訪問して来られたり、友人が訪ねて来ている。また、利用者の生まれ育った土地に行ってみたいと話すことも多く、希望のある時にはドライブに出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う入所者同士が隣同士に座れるよう、場所を決めないようにしており、意思疎通が困難な利用者に対しては、職員が間に入り他の入所者と関わりが持てるような支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人、家族が困らないよう、相談や助言を行い、必要時窓口の紹介や書類作成を行っている。また退所した入所者が月に1回、継続して遊びに来ている例もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	モニタリングを3か月に1回行い、本人の思い、意向を抽出し希望に沿う援助をしている。意志疎通が困難な利用者に対しては本人本位に検討し援助している。	利用者と職員が二人で過ごす機会(時間)に、ポロリと本音で話される時がある。利用者の「ポロリ」を大切に聞き取っていけるよう心掛けをしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族との関わりの中で聞き取り、把握し、日々の生活の中に取り入れている、		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で、一人ひとりその日の状態(体調や意志)を考慮しながら押し付けにならないように職員は対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングを3か月に1回行い、本人の思い、意向を抽出し家族が来訪したときも聞き取りを行い、現状を踏まえた上で介護計画を作成している。	担当職員が、利用者やご家族の意向の把握に努め評価し、それを基に介護計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、通院の経過を個々のケース記録に記入している。また重要事項、通院録に関しては別途連絡ノートを設け、一覧できるようにしている。朝、夕の申し送りと月1回のミーティングで個々のケース情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	敷地内に居宅支援事業所が併設しており、その中に誰でも利用可能な交流スペースがあり、運営推進会議や広報にいつでも利用できる旨を情報提供している。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームまぶる

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	病院、店、馴染みの人などを把握し、本人と共に地域資源を活用することによって施設外いつでも接点を持てるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にかかっていた医療機関を利用しているが、必要時、本人家族の希望時はいつでも変更可能となっている。	町外の通院を希望する時は、原則として、家族対応となっているが、町内の通院は、普段の様子が見分かる職員の対応で、利用者それぞれのかかりつけ医を受診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員は不在だが、日常の変化、本人の希望に応じ受診または電話での状態報告を行い、指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時に書類での情報交換を行い、病院、本人、家族とホームの事情をふまえた上で話し合いを行い、治療している。病院側は開所時より理解した対応と取って下さっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合の話し合いを行っている。状態変化時には家族への報告や相談を行い、再度主治医と家族と終末期のあり方について協議している。	契約時に、重度化した時の方針を説明している。また、事業所の看取りの指針を作成しているが、今後、家族からの同意書の作成に取り組む予定となっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に数回消防協力のもと、AEDを用いた心肺蘇生法と応急手当の訓練を受けている。マニュアル作成や研修資料の活用により、急変時、事故発生時に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に数回、火災を想定した避難、通報、消火訓練を消防等の協力のもと行い、短時間で効率的に避難できるかの助言を頂いている。また新しい施設に移り、地域との協力体制、関係作りを築いて行きたいと思っている。	津波の心配のない高い場所に転居したことで、津波の心配のない生活が来ている。火災想定避難訓練では、消防署職員の立会により、煙を使った避難訓練が行われている。	新たに転居した事で、夜間の避難訓練による避難路の足場や、照明などの確認を行い、実践的な避難訓練を期待したい。また、地域の方々の協力体制の構築にも期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は入所者の人格を理解し、一人ひとりに合った声掛けを行っており、方言なども用いています。	山田弁(方言)を大切にし、堅苦しくならないよう馴染んだ声掛けを心がけて対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活で必要な物で自己決定できる入所者に対しては、本人、家族の了承のもと、買い物に出掛け自分で選んで購入できるように支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々を楽しく生活してもらえよう、団体生活の中で個々のペースに合わせた援助をしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝鏡の前で整容を声掛けしている。また要望に応じて美容院に出向いたり、定期的に訪問理美容に依頼し散髪をしてもらっているが、暖かくなったら外出を増やしたいと思っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養士の作成する献立に沿って入所者4~5人と共に準備や後片付けを行っている。また土日の昼食は入所者に何が食べたいかを聞いて共に準備を行っている。	調理や盛り付け、片付けを利用者と共に行っている。土・日の昼食は、具体的に「何か食べたいか」を聞き取り、希望の献立により食事をすることに取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量は常に把握できるよう記録している。個々の食事形態に合わせて援助しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後のうがいや歯磨き、義歯洗浄を声掛けし介助している。また曜日を決め週2回、薬剤を使用して義歯の消毒を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ誘導の時間を決めたり、入所者の言動、行動から排泄のサインを見落とさないようにしている。また入所者に合わせ、日中はリハパンから下着に変えるなどの対応をしています。	便秘対策として、乳製品や繊維質の多い食品を取るよう支援している。定時のトイレ誘導の他に、行動や表情の観察により、排泄のサインを見逃す事がなく、利用者が排泄を失敗しない介護に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の食事に食物繊維の多い野菜や乳製品を取り入れている。また季節に応じてお茶やみかん等入所者の見える場所に置いて気軽に水分補給できるようにしており、薬にあまり頼らないようにしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日を問わず日中帯のどの時間でも入浴できるようにしている。また意思疎通が困難な入所者に対しては、週2～3回の入浴が確保できるようにしている。	入浴拒否のある利用者には、時間をおいて声掛けをしてみたり、職員を変えて声掛けをしている。また、無理強いすることなく、今日が難しければ明日というように、柔軟に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床、就寝時間は決まっているが、入所者に合わせ対応している。また昼食後の昼寝に限らず、休みたいたときには居室で休めるよう対応しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の処方薬の説明書を個別ファイルに綴じ、薬の目的や副作用等をすぐに確認できるようにしている。また新たな薬が処方されたときは、連絡ノートや申し送りにて職員同士情報を共有し合っており症状の変化の観察に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で食事の準備や後片付け、洗濯たたみなど、個々に役割を持って作業をいただいている。また日々の散歩、買い物を入所者と共に行い、外に出ることで季節を感じ気分転換できるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の入所者の希望を取り、1対1のドライブを企画したり、落ち着きのない入所者に対しては突発的にドライブをしたりしている。また季節に合わせて山や海に出掛ける等して、季節を感じてもらえるよう支援している。	食材の購入・白鳥を見に行き・花見・紅葉狩り・外食など出かける機会を大切にしている。また、冬場で近隣の散歩ができる日は限られているが、暖かくなれば、近くの散歩も楽しめる環境となっている。	

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームまぶる

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の所持、使用は入所者、家族の希望、能力に合わせ可能としている。外出時に欲しいものを所持している金銭から支払った例もあります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればいつでも電話をかけるのは可能となっている。手紙を送りたいとの希望はないが、年末には家族への年賀状を職員と共に作成し、送る援助をしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じて、その季節を感じられるように活動、装飾を行っている。入所者の作成した作品はいつでも眺められるよう共用空間に飾っています。	ホールにはグループホームのイメージカラーの黄色い座り心地のいい椅子や、椅子のまま座れる炬燵が置かれ、ゆったりと利用者の方々が過ごしていた。利用者の作品や、お雛様が飾られ、日当たりのいい明るいホールとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間は気の合う仲間同士過ごせるようにしており、テーブル席、ソファ席と自由に座れるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にハンガーラックを置き、好きな服を選べるようにしたり、鏡を置いたり写真を飾ったりしています。仮設から引っ越しまだ間もないですが、少しずつその人らしい部屋になってきています。	箆笥やベッド・エアコンが備え付けとなっている。利用者の馴染みの物品の持ち込みなど促しているが、現在は利用者の希望により鏡や電気毛布等の持ち込みとなっている。	利用者それぞれの本人らしさが感じられる居室作りの取り組みに期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の居室の玄関となる入り口には、わかりやすく名前と自宅のある場所の地名を表示しています。		